



イマジン
ロータリー

東京新都心ロータリークラブ

【お互いを尊重し、楽しく豊かなロータリーライフを送りましょう】

Shintoshin Weekly

〒160-0023 新宿区西新宿2-7-2 ハイアットリージェンシー 東京11階

TEL : 03-3340-3555 FAX : 03-3340-3554

HP : <http://www.tokyo-shintoshin-rc.org> E-mail : shintoshin-rc@par.odn.ne.jp

会長 山口昭夫 幹事 石川佳照 創立 : 1988年9月21日

「日本語という精神文化を守る」

作詞家 作家 吉元 由美 氏



「言葉が乱れると国力が落ちる」

「政治家の言葉が軽くなると、国力が落ちる」

国文学者の中西進先生の言葉です。中西先生は、直接はおっしゃいませんが「令和」という元号を考案された方でもあります。国力とは、経済力でも軍事力でもありません。文化です。経済力も軍事力も政策次第で取り戻すことはできますが、一度失われた文化を取り戻すことはできません。文化とは、継承されてきた伝統、芸術、思想によって形成されてきたものであり、とりわけ精神文化はその民族の遺伝子に深く刻まれたものであると考えます。

今の日本はどうでしょうか。日本のリーダーたちは、日本をどのような国にしたいのでしょうか。あちらこちらに入った小さなひび割れが、何かをきっかけに割れ落ちてしまうのではないか。日本は今、そのような状態にあるような気がしてなりません。言論人の言葉の軽さに、その状況の一端があるように思います。

言葉は伝達手段ではありません。言葉には、その意味と共に現実化する力、「言霊」が宿っていると信じている日本人たちは考えていました。日本人は、何よりも言葉を大切にし、心、情緒を和歌に詠んできた民族です。歌を詠む文化は、万葉集の時代から、1945年、敗戦を迎えるまで続いていました。

失われていく言葉と共に、その精神も失われていきます。例えば、「はしたない」という言葉があります。最近あまり使われなくなった言葉です。すると、どういことが起きるか。「はしたない」という精神文化が失われ、「はしたないこと」が横行するのです。この一つの言葉が失われただけでも、取り戻すのが大変だということがおわかりいただけると思います。

「令和」という元号には、「令しく（うるわしく）調和する」という意味がこめられています。元号とは、その時代のスローガンです。日本語という精神文化を守るために、まず大人たちが生き方を糺していく。それが令和というこの時代の礎となっていくのです。

<プロフィール>

吉元由美

作詞家 作家 洗足学園音楽大学客員教授 淑徳大学人文学部表現学科客員教授 日本語検定委員会理事

東京生まれ。成城大学文芸学部英文学科卒業。広告代理店勤務の後、1984年作詞家デビュー。これまでに杏里、田原俊彦、松田聖子、中山美穂、安倍なつみ、山本達彦、石丸幹二、加山雄三など多くのアーティストの作品を手掛ける。

平原綾香の『Jupiter』はミリオンヒットとなる。東宝ミュージカル『RENT』の全訳詞を担当。1990年小説『さよなら』（マガジンハウス）を出版。エッセイストとしても幅広く活動し、著書に『読むだけでたくさん「奇跡」が起きる本』『ひとり、思いきり泣ける言葉』（三笠書房）『あなたの毎日が「幸せ」でいっぱいになる本』（PHP研究所）『みんなつながっている—ジュピターが教えてくれたこと』（小学館）『こころ歳時記』（ディスカバー21）『自分の言葉を持つ人になる』（サンマーク出版）『年を重ねるほど美しく幸せになっていく女性の理由』（大和書房）『大人の結婚』（水王舎）『自分という物語を生きる』（水王舎）など著書多数。2022年12月、初の詩集『いのちを紡ぐ言葉 かけがえのないこの世界で』（きれい・ねっと）を出版。

また『吉元由美のライブアーティスト・アカデミー』を主宰。「Tough & Beautiful 魂が喜ぶように生きよう」をテーマに、言葉と心と感性を磨く言の葉塾、ソングライティング・クラス、夢のスタディクラスを開催している。

吉元由美オフィシャルホームページ

<http://www.yoshimotoyumi.com>

2023年5月24日(水) 第1549回例会

「日本語という精神文化を守る」

作詞家 作家 吉元 由美 氏

(紹介者 半場 慎一 会員)

次回のプログラム

2023年6月5日(月) 第1550回例会
「第2580地区中央分区第2グループ合同例会」

会場 : 京王プラザホテル 南館4階

開会点鐘 11時30分 閉会点鐘 13時10分